

危険がいっぱいマイナンバーカード

ふさの会と共催学習会開催 講師に竹田邦明氏(日退教)



パワーポイントを使って講演する竹田講師・2.18

念願の退男教・退女教共同開催

2月18日、マイナンバー学習会を開催しました。退女教(ふさの会)との共催は、故小泉昇会長の時からの宿願でした。共催だったこともあり、女性の参加者が多く、用意した資料が足りなくなるほど盛況でした。

能登会長の挨拶のあと、日本退職教職員協議会(日退教)事務局長の竹田邦明さんが、パワーポイントを使って、要所要所を押さえた分かりやすい話を展開。初めに年金の話。「マクロ経済スライド」により、毎年少しずつ(0.9%)減らされる年金の話。

マイナンバーは個人に付けられた12桁番号

自宅に「マイナンバー通知書」が書留便で届いた。12桁の番号が自分に付けられたマイナンバー。これは一生変わらない。(原則変更不可) 何に使うのでしょうか。

① 税 ② 社会保障分野 ③ 災害対策
今でも、すでにそれぞれの行政機関では、独自の番号を使っていますが、それを12桁で一本化したのです。行政側の国民管理システムです。

マイナンバーを拒否するのは、難しいです。怖いのは、マイナンバーカードです。すでに申請用紙が「通知書」に同封されています。

便利なカードが危ない

カードは、顔写真があり公的な身分証明書として使えるし、左側の①②③の事務処理にこれ一枚で用が足せるそうです。ICチップが入っているので、印鑑証明等のコンビニ交付、図書館利用、(国家公務員は4月から身分証実施、いずれは社員証にも)なども可能になるそうです。

さらに、政府、自民党が考えているのは、個人番号とクレジットカード、ポイントカード、診察券、運転免許証との一本化、教員免許との一本化、健康保険証などを後から付けたして、1枚、**ワンカード化**を目指しています。これ1枚あれば大量のカードを持ち歩く必要が無くなります。何もかも解決。こんな便利なカードですから、常時携帯しなければなりません。落としたら、どうなるのでしょうか。車の運転も、病院もかかれませんか。これって本当に便利？

カード普及の先には・・・

ナンバーカードによって政府は、いずれ個人の資産、病歴、車両情報、GPS機能での行動把握、生体認証(指紋、虹彩、顔写真)などの個人情報すべてを管理できます。近い将来、生体認証を利用してカメラが一人ひとりを監視することもできます。政府はカードの普及を狙っています。普及し始めれば今の任意制から、義務化になって行くでしょう。それは絶対にさせてはならないのです。普及させないためにも、カードは怖いものとし、作らないことです。

そのことが管理、監視社会にさせないための私たちができる自衛手段の一つでしょう。

『はじまりのみち』

(二〇一三年 松竹映画)

相原 勲

戦後初期、「二十四の瞳」などの秀作を次々と作った映画監督、木下恵介の若き日を描く。

戦争中に監督に昇進した恵介、陸軍省推薦で製作した「陸軍」が反軍的であると指摘され、準備中の次作が当局から不許可となる。

「戦争もいつかは終わる。今は辛抱の時」と諫める撮影所長の説得を振り切り、退職して故郷の浜松に帰るところから映画は始まる。

浜松には空襲の危険があり、脳梗塞の後遺症で動けない母親を山村の母の実家に兄とリヤカーで送り届けることになる。

荷物までは運べないので、若い便利屋を雇う。この四人の苦難の旅が映画の大部分だが、わたしの好きなのは映画の終わりに近い場面。

した一日、川のほとりで恵介と便利屋が会話を交わす。恵介が映画監督と知らない便利屋が「陸軍」という映画見たかね」と尋ねる。内心慌てながらも「いや、見てない」と答えた彼に、便利屋が「泣けた、泣けた。特に最後の、出征する息子の行進を母親が何処までもおいかけるところがね」とその場面を語り出す。

ここで実際の映画「陸軍」が挿入される。

田中絹代扮する母親が行列を何処までも泣きながら追いかける。力尽き転んだ母を残し行進は遠ざかる。その後ろ姿に向かい彼女が涙まみれの顔で手を合わせるところでエンドマークになる。この場面は十分近くも続く。

話し終えた便利屋は「俺が出征する時も母ちゃんはあのように泣いてくれるかな」と言う。「息子に『立派に死んでご奉公せよ』なんていう母親はいないさ。それを軍は『皇国の母が女々しい』なんて言うんだ」と涙ぐみながらいう恵介。

事情を知らない便利屋は、怪訝な顔をする。最後に「またあんな映画が見たいなあ」とつぶやく便利屋をじつと見つめる恵介の顔でこの映画は終わる。

便利屋の言葉と、「もう一度木下恵介の映画が見たい。撮影所にお帰り」という母の言葉に押され恵介は、撮影所に戻るべく故郷を出発する。彼がくぐる長いトンネルが彼の再出発を象徴する。まさに「はじまりのみち」だ。



木下恵介役を演じる加瀬亮。木下の若き日をほうふつさせる風貌とたたずまいが好評。

旅が終わりに近づいたある日、旅館に泊まり休息をとる。骨休めののんびり

編集部注・木下恵介生誕100年記念作品

監督・脚本 原恵一 出演 加瀬亮、田中裕子、浜田岳、ユースケ サンタマリア DVD発売

慰安婦写真展中止 ニコンに賠償命令

本誌第47号(12年7月27日発行)で既報の写真展の中止で裁判になっていた件で、一方的に中止したニコン側に昨年12月25日東京地裁は110万円を写真家に賠償するよう言い渡した。表現の自由を守った判決だった。

2・21止よう辺野古埋め立て 国会包囲

沖縄・辺野古新基地建設に反対する抗議集会が21日、2万8千人参加し国会を包囲した。稲峰進名護市長等があいさつをし、沖縄を返せの大合唱で散会した。

お知らせ

2月27日(土) 午後2時 千葉市中央公園

「戦争法を使わせない・廃止を求めろ」

27千葉県民集会

主催 再び戦争をさせない千葉県1000人

委員会

退男教

3月17日(木)10時
定例会・会館図書室

春の散策は東京都庁、早稲田にある「わたしたちの戦争と平和資料館」等に行きます。桜の開花がまだわかりませんので、定例会で、日にちを決めます。